

# Inez と Hard-Heart : Inez の救い

肴 倉 宏

## **Inez and Hard-Heart : the Salvation of Inez**

Hiroshi Sakanakura

### 抄 録

光と闇は、*The Prairie* を構成する重要な要素であるだけでなく作品のテーマを支える重要な意味も与えられている。光と闇は、それぞれ、善と悪を象徴的に示している。Inez は、闇の象徴的な意味を理解している。悪に蝕まれていることを自覚している Inez は、悪から解放されることを願っている。Paul Hover、Obad Battius、Duncan Uncas Middleton そして Natty Bumpo たちは、Inez を悪から解放できないのである。メシヤとして描かれている Hard-Heart だけが、Inez を悪から解放できるのである。Inez は、彼女のメシヤ Hard-Heart に対する信仰ゆえに救いを得ている。

**キーワード：**ジェームズ・フェニモア・クーパー、「大草原」、救い、イネツ、  
ハード・ハート

(2001年 8月25日 受理)

### **Abstract**

The contrast between light and darkness constitutes both structural and thematic frames of *The Prairie*. Light symbolizes good while darkness symbolizes evil. Inez understands the symbolic meaning of darkness. Inez who is aware of being possessed by evil wants to be liberated from evil. Paul Hover, Obad Battius, Duncan Uncas Middleton and Natty Bumpo fail to liberate Inez from evil. Only Hard-Heart as a messianic person liberates her from evil. Inez obtains her salvation because of her faith in Hard-Heart as a messianic person.

**Key words:** James Fenimore Cooper, *The Prairie*, salvation, Inez, Hard-Heart

(Received August 25, 2001)

批評家たちは、James Fenimore Cooper の *The Prairie* (1827) に描かれた Inez de Certavallos についてさまざまな意見を述べている。Henry Nash Smith や Donald A. Ringe は、Inez の誘拐と大草原地帯への移送のプロットを非現実的でありえない話とみなし Inez に関してあまり論じていない。<sup>(1)</sup> 彼等と逆に、William H. Goetzmann は、Inez の誘拐と大草原地帯での身代金集めをありえない話とはみない。彼は、スペイン当局の前哨基地が大草原地帯に点在していたことを考慮すれば大草原地帯で身代金を受け取ることは可能だという。プロットをありえることと考えるけれども Goetzmann にしても Inez に重要な意味を見ているわけではない。<sup>(2)</sup> William Wasserstrom は、他の批評家たちに比べ Inez に重要な意味を見ている。Wasserstrom は、Inez の役割について次のように述べている。

And his [Asa's] mood is provoked by the odor of passion which Inez exudes. She is a genteel female of Cooper's usual sort and, simultaneously, she is a woman of peculiar erotic power. She is therefore ideally suited to play the role Cooper reserved for her, to take her place at the center of a plot encircled by crimes of passion. <sup>(3)</sup>

Wasserstrom は、Inez を性的な魅力をふりまく女性と解釈している。そして彼は、肉欲的な Inez が Ishmael Bush と彼の長男 Asa の対立や Asa と叔父の Abiram White の喧嘩をもたらす原因になっていると述べている。Wasserstrom は、性的な魅力をふりまく Inez が物語を展開させる中心的な役割を果たしているという。

しかし、光と闇から構成された舞台の中で *The Prairie* の Inez を捉え直してみるとどうなるであろうか。光と闇から構成された舞台の中で捉え直してみると、Inez は象徴的な意味を与えられた新しい人間像として浮かび上がってくるように思えるのである。そして作品を構成する舞台は、重要な意味を持つてくるように思えるのである。

光は、作品 *The Prairie* の舞台を構成する重要な要素となっている。Cooper は、物語の第1章と最終章の第34章で夜の闇が訪れる直前に燃えるように輝いている夕日を描いた。このようにして、彼は *The Prairie* の物語を光の枠組の中に置いているのである。しかし、この作品で光が果たす役割は、作品を構成する要素として重要であるだけではない。それは、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられているのである。Cooper は、夕日に示される光が象徴的な意味を持つていることを示そうとしたのである。第1章で Cooper は、夕日の場面を次のように描いている。

The sun had fallen below the crest of the nearest wave of the Prairie, leaving the usual rich and glowing train on its track. In the centre of this flood of fiery light a human form appeared, drawn against the gilded background, as distinctly, and seemingly as palpable, as though it would come within the grasp of any extended hand. The figure was colossal; the attitude musing and melancholy, and the situation directly in the route of the travellers. But embedded, as it was, in its setting of garish light, it was impossible to distinguish its just proportions or true character. (14-15) <sup>(4)</sup>

Natty Bumppo は、小高い丘の上にとって燃えるように輝いている夕日を満身に浴びている。この場面にやってきた Ishmael Bush は、Natty Bumppo を照らし出している夕日の背

後に自然現象を超えた宗教的な意味を読み取ったのであろうか、一瞬、“superstitious awe” (15)に打たれ立ち止まってしまうのである。Cooper の作品における光の使い方に関心を寄せている Donald A. Ringe は、*The Prairie* の冒頭の夕日の場面に注目して “the light... surrounds the trapper with a halo of light, and, in effect, almost sanctifies him.” と述べている。<sup>5)</sup> 冒頭の夕日は、宗教的な意味が込められていると Ringe は指摘しているのである。

光に与えられた象徴的な意味は、最終章の第34章でさらに強調されている。死を目前にしている Natty Bumppo が、Duncan Uncas Middleton, Paul Hover, Pawnee 族の Hard-Heart たちに囲まれて夕日を見つめている。Cooper は、その様子を次のように描いている。

The trapper had remained nearly motionless for an hour. His eyes, alone, had occasionally opened and shut. When opened his gaze seemed fastened on the clouds which hung around the western horizon, reflecting the bright colours and giving form and loveliness to the glorious tints of an American sunset. The hour—the calm beauty of the season—the occasion all conspired to fill the spectators with solemn awe. (385)

夕日が放つ光は、ここでは、Natty Bumppo をはじめとして夕日を見つめているものたちの心に畏敬の念を呼び起こしている。そして、それから間もなく、Natty Bumppo は両側を支えられながら立ち上がり、“with a fine military elevation of the head, and with a voice that might be heard in every part of that numerous assembly” (385)と描かれているように姿勢をただし大きな声で “Here!” (385)と応答している。夕日に示された光は、人間の全身全霊を持って応答しなければならない神的存在を象徴的に示しているのである。

Cooper は、*The Prairie* の第1章と最終章で栄光に輝く夕日を描いた。そうすることによって、彼はこの作品を包む枠組みを作り上げた。しかも、作品を包む枠としての光は、夕日が織り成す色彩的な美しさを強調するためではなく、明らかに神的な意味を帯びる象徴性を与えられているのである。

*The Prairie* の舞台を構成するもう一つの重要な要素は、闇なのである。Cooper は、物語の冒頭の夕日の場面に続いて、すなわち第1章後半から第6章にかけて闇の場面を描いた。闇は、光と同様に作品のテーマを支える重要な意味を与えられている。Cooper は、闇に与えられている意味を Siouxs 族を通して示している。“the Ishmaelites of the American deserts” (40)と描かれている Siouxs 族は、Natty Bumppo に “the miscreants!” (37)や “the thieves” (38)と言われている。彼等は、倫理的に腐敗している連中なのである。Cooper は、夜陰に紛れて獲物を求めて徘徊している Siouxs 族を “A band of beings, who resembled demons rather than men sporting in their nightly revels across the bleak plain” (37)と述べている。Siouxs 族は、人間というより悪魔に似ているというのである。このような連中を包み隠す闇は、悪の跳梁を許す象徴的な意味を与えられているのである。

闇に与えられている意味は、Siouxs 族の族長 Mahtoree を通して一層強調されている。Cooper は、Mahtoree を描くとき蛇のイメージをふんだんに用いている。たとえば、略奪を企む Mahtoree が Ishmael Bush 一家のキャンプに忍び込む様子は、次のように描かれている。

The progress of Mahtoree was now slow, and to one less accustomed to such a species of exercise, it would have proved painfully laborious. But the advance of the wily snake itself is not more certain or noiseless, than was his approach. (50)

Mahtoree は、ずる賢い蛇が音もたてず確実に獲物に近づくよりも巧妙に Ishmael のキャンプに忍び込むのだ。彼は、Ishmael Bush 一家の一人一人の顔を覗き込み寝静まっていることを確かめたくて、キャンプの中を歩き回る。Cooper は、Mahtoree の様子を “he stalked through the encampment, like the master of evil, seeking whom and what he should first devote to fell purposes.” (53) と描いている。残忍な目的を遂げるための犠牲者を探している Mahtoree は、悪の化身なのである。Mahtoree の暗躍を許す闇は、倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する象徴的な意味を与えられているのである。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。彼は、象徴的な意味を帯びる光を物語の枠組として設定している。神的な意味を与えられた光の枠組は、その中に倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する恐ろしい闇を包み込んでしまうものなのである。このように Cooper が *The Prairie* の冒頭で見せる光の舞台は、これから繰り広げられる事柄に関する問題の中心が、光か闇に深いかかわりを持つ問題であることを予表しているのである。冒頭の光の場面は、光が象徴的に表わすものを信じるか、それとも闇の世界にとどまるかという倫理的な問題が、*The Prairie* の中心課題であることを暗示しているのである。

Inez が、光と闇から構成されている *The Prairie* の舞台に登場する。彼女は、Don Augustin de Certavallos の娘で Duncan Uncas Middleton の新妻なのだが、Ishmael Bush と彼の義弟 Abiram White に誘拐され Louisiana 地方から大草原地帯まで連れて来られたのである。Ishmael の幌馬車やテントの中に隠されている Inez が読者の前に姿を現わすのは、物語が始まってしばらくした第8章になってからである。Cooper は、Ishmael の砦の一番高いところに張られているテントから現われた Inez を “Her person, was of the smallest size that is believed to comport with beauty, and which poets and artists have chosen as the beau ideal of female loveliness.” (91) と描き読者に紹介する。Inez は、小柄で美しくまるで女性美の典型を示すような人物なのである。Ishmael Bush 一家の連中は、砦の上に現われた “so extraordinary a spectacle” (91) を見上げて驚いてしまうのである。テントの中に大草原で他の動物を捕えるための “a decoy!” (92) が隠されていると Ishmael と Abiram に信じ込まされていた一家の連中は、美しい Inez を “some supernatural vision” (92) を見ているように仰ぎ見ている。Inez は、この世のものと思われぬ超自然的な印象を Ishmael Bush 一家の者たちに与えているのである。

Inez のこの世のものと思われぬ特徴は、物語の中でしばしば強調されている。Father Ignatius が Middleton をカトリック教徒に改宗させようと努力しているとき、“glimpses of the light, sylph like form of Inez” (158) が “some fairy being” (158) の様に Father Ignatius の脳裏をかすめていく。Hard-Heart は、Natty Bumppo と話ながらも “the loveliness of an ethereal being” (189) を見ているように Inez の方に視線を移している。Middleton は、“the light and aerial looking figure of Inez” (214) を支えながら優しく彼女を見ている。Ishmael

Bush の娘 Phoebe が、第14章でテントから現われた Inez に鉄砲を撃ったときも “the surprised Phoebe, discharged her musket at the female, scarcely knowing whether she aimed at the life of a mortal, or at some being which belonged to another world.” (153) と述べられている。Phoebe は、相手が人間なのか天使のような存在なのか分からずに鉄砲を撃っているのである。Inez は、天使のような清らかな女性なのである。彼女の清らかさは、彼女の名前を通してさらに強調されている。Inez の名前は、‘pure’ や ‘chaste’ という意味を持つ Agnes という名前のスペイン語形である。<sup>(6)</sup> 彼女の名前は、彼女が汚れない存在であることを象徴的に示している。Inez は、天使のように美しく無垢な女性なのである。

天使のように美しく汚れない Inez は、黒髪をした女性としても描かれている。彼女は、着ている黒い服よりもはるかに黒い髪をしている。Cooper は、岩の上に現われた Inez を次のように描いている。

Her dress was of a dark and glossy silk, and fluttered like gossamer, around her form. Long, flowing, and curling tresses of hair, still blacker and more shining than her robe, fell at times about her shoulders, completely enveloping the whole of her delicate bust in their ringlets, or at others, streamed long and waving in the wind. (91)

Inez は、身を包む光沢のある黒い服よりもはるかにつややかで黒い髪をしている。彼女の黒髪は、スペイン系の血を引く “a Louisianian Lady” (156) であることを示している。しかし彼女の黒髪は、Inez の人種的・民族的特徴を表わしているだけではない。それは、象徴的な意味をも与えられている。Inez の黒髪は、作品の舞台を包む闇に象徴的に示された悪に生まれながらに触まれていることを象徴的に示している。Inez の黒髪は、人種的・民族的特徴ばかりか人間性を悪に触まれていることをも物語っているのである。天使のように美しく汚れない Inez は、同時に悪に触まれた存在でもあるのである。

悪の化身 Mahtoree は、悪に触まれている Inez に関心を示す。Mahtoree は、第4章で初めて Inez を見るのである。彼は、夜陰に紛れて Ishmael Bush のキャンプに忍び込み Inez の寝ているテントに “his dark visage” (52) をつつ込む。一度覗き込んだあと彼は、“brooding over his discovery” (52-53) と述べられているように少し考え、それから再び覗き込む。Cooper は、二度目に暗い顔をテントにつつ込んだ Mahtoree について “His second visit to the interior was longer and, if possible, more ominous than the first.” (53) と描いている。Mahtoree は、二回目は Inez をじっと眺めている。悪の化身 Mahtoree は、人知では計り知れないほどの洞察力と邪悪な意図をもち Inez を餌食にしようとして凝視しているのである。彼は、Inez の黒髪に自分と同質の黒さを認めているのである。悪の化身 Mahtoree は、Inez が悪に触まれていることを見抜いている。

悪の化身 Mahtoree は、これ以後機会あるつど Inez を自分の虜にしようとする。第20章で再び Inez を見ると、Mahtoree は “his fierce, dark, visage” (213) に “a smile” (213) を浮かべ彼女を見つめている。Cooper は、Mahtoree の様子を “The look of the Teton was long, rivetted, and admiring....it resembled more the gaze of a mortal on some heavenly

image, than the admiration with which man is wont to contemplate even the loveliness of woman.”(216)と描いている。Mahtoree は、女性を見ているというよりは天使を見ているように視線を Inez に釘付けにしている。彼の Inez に対する視線は、“fair hair”(88)をした Ellen に向ける視線と対比されている。Cooper は、Ellen に対する Mahtoree の視線を “the chief next turned his eyes on Ellen, where they lingered an instant with a much more intelligent expression of admiration”(216)と描写している。Mahtoree は、金髪 of Ellen の美しさを称えるけれども一瞬目を止めるだけである。彼は、明らかに金髪 of Ellen よりも黒髪をした Inez に興味を示している。彼は、悪に蝕まれている Inez に自分と同質の悪を嗅ぎつけ興味を覚えるのである。ついに彼は、第26章で Inez を自分のものにしてしまう。Mahtoree は、“the dignity of a chief”(290)をかなぐり捨て、謙虚さを装いながら Inez に次のようにいう。

He thought a horse was pleasanter than a Dahcotah girl. But he found a flower on the Prairies, and he pluck'd it, and brought it into his lodge. He forgets that he is the master of a single horse. He gives them all to the stranger, for Mahtoree is not a thief; he will only keep the flower he found on the Prairie. Her feet are very tender. She cannot walk to the door of her father, she will stay in the lodge of a valiant warrior for ever. (291)

Mahtoree は、花に例えられた Inez がどんなものより価値のある存在だといひ結婚を申し込む。彼は、こうして Inez の人間性を破壊しようとしているのだ。悪の化身 Mahtoree は、Inez の人間性を蝕み天使のように汚れない彼女の魂を徐々に徐々に荒廃させていくのである。

悪の化身 Mahtoree に囚われている Inez は、自分が悪に蝕まれていることを自覚しているのである。Cooper は、Mahtoree のテントに閉じ込められている Inez を次のように描写している。

The bride of Middleton was seated on a simple couch of sweet scented herbs, covered with skins. She had already suffered so much and witnessed so many wild and unlooked for events, within the short space of her captivity, that every additional misfortune fell with a diminished force on her, seemingly, devoted head. Her cheeks were bloodless, her dark, and usually animated eye, was contracted in an expression of settled concern and her form appeared shrinking and sensitive, nearly to extinction. But in the midst of these evidences of natural weakness, there were at times such an air of pious resignation, such gleams of meek but holy hope, lighting her countenance, as might well have rendered it a question whether the hapless captive was most a subject of pity, or of admiration. All the precepts of Father Ignatius were rivetted in her faithful memory, and not a few of his pious visions were floating before her imagination. Sustained by so sacred resolutions, the mild, the patient, and the confiding girl was bowing her head to this new stroke of Providence with the same

sort of meekness as she would have submitted to any other prescribed penitence for her sins, though nature, at moments, warred powerfully, with so compelled a humility. (286-287)

Inez は、これ以上の不幸が重なってもたいした精神的打撃とはならないほどの多くの魂の苦悩を短期間に味わっているのである。しかし彼女は、圧倒的な悪の力に屈しがちな人間の生まれながらの弱さを自覚しながらも Father Ignatius の教導したカトリックの教えに従い魂の苦悩に耐えようとしているのである。黒髪をもって生まれた Inez は、自分が生まれながらに悪に染まっている人間であることを自覚しているのである。

Inez は、悪の化身 Mahtoree に捕えられているだけではない。彼女は、Ishmael Bush 一家にも捕えられているのである。Ishmael Bush 一家は、kentucky 州で他人の土地を不法に占拠し彼等を追い立てようとした “the sheriff’s deputy” (58) を射殺した。その結果、彼等は、“with dollars enough for reward to have made an honest man rich” (92) と言われるほどの多額の賞金をかけられたお尋ね者になってしまったのである。さらに Ishmael は、義弟 Abiram White に唆されて大草原に来る途中で立ち寄った Louisiana で Inez を営利誘拐した。Ishmael Bush 一家は、倫理的に腐敗堕落した一家なのである。このような Ishmael Bush 一家は、悪の化身 Mahtoree と深く係わりを持っている。彼等は、Mahtoree に自分の馬や家畜を奪われたときは憎しみから復讐を決意する。しかし彼等は、Natty Bumppo たちが Inez や Ellen を Ishmael の砦から解放したときには彼等を取り返すため Mahtoree と手を組む。Ishmael 一家は、目的のためならば悪の化身とさえ手を組む無節操な連中である。<sup>(7)</sup> 悪に人間性を蝕まれ魂を喪失している Ishmael 一家は、象徴的な意味が与えられている。Ishmael 一家は、悪に蝕まれ腐敗堕落している人間の世界を象徴的に示しているのである。腐敗堕落している人間の世界は、古い倫理観が支配している世界でもある。Ishmael 一家の構成員の名前は、Ishmael, Esther, Asa, Abiram, Absalom という具合に旧約聖書からとられ付けられている。そのうえ、Ishmael は “‘eye must be returned for an eye’ and ‘a tooth for a tooth’” (343) という復讐法を正義の基準として用いている。Ishmael 一家は、腐敗堕落している人間の古い世界を表わしているのである。黒髪をした Inez は、Ishmael Bush 一家に捕えられ幌馬車やテント中に閉じ込められている。そのことは、Inez が悪に蝕まれ堕落した人間の世界の囚われ人であることを物語っている。Inez は、悪に蝕まれているだけでなく彼女と同様に悪に蝕まれている人間から構成されている世界に捕えられているのである。

悪に蝕まれていることを自覚している Inez は、自分が堕落した人間の世界に囚われていることをも自覚しているのである。第16章の Inez と Middleton の会話に耳を傾けてみることにする。Middleton は、Ishmael Bush の砦から Inez を解放したとき “...in what manner were you treated?” (168) と尋ねる。彼は、Inez がひどい目にあわされたのではないかと心配しているのだ。Inez は、Middleton の心配に対して次のように答える。

In every thing, but the great injustice they did in separating me so forcibly from my friends, as well, perhaps, as the circumstances of my captors would allow. I think the

man, who is certainly the master here, is but a new beginner in wickedness. He quarrelled, frightfully, in my presence, with the wretch who seized me, and they made an impious bargain, to which I was compelled to acquiesce, and to which they bounded me as well as themselves by oaths. Ah! Middleton, I fear the heretics are not so heedful of their vows as we who are nurtured in the bosom of the true church!  
(168)

Inezは、強引に引き離されるという暴力を除けばひどい扱いを受けなかったという。そして彼女は、IshmaelよりAbiramのほうが悪いともいう。さらに続けて彼女は、IshmaelとAbiramが神を冒瀆するような取り決めをし、それに嫌々ながら彼女も従わざるを得なかったとも告白している。Inezは、Ishmael Bush一家に具現された墮落した人間の世界で生きている限り嫌でも悪の存在を黙認したり悪に屈せざるを得ないことも知っているのである。熱心なカトリックの信者であるけれども、彼女は腐敗墮落している現実の人間の世界から超然として純粹無垢な世界にいるという幻想を抱いていない。悪に蝕まれていることを自覚しているInezは、おぞましいことであるけれども悪を容認し妥協せざるを得ない人間の哀しい宿命を自覚しているのである。Inezは、人間の墮落性と人間の世界の墮落性とが分離不可能なくらいに密接に結びあっていることを見抜いているのである。

天使のように汚れないInezは、黒髪をした人間でもある。彼女は、生まれながらに悪に蝕まれているのである。悪に蝕まれていることを自覚しているInezは、Ishmael Bush一家に囚われてもいる。彼女は、墮落した人間の世界の住人であることをも自覚している。悪の化身MahtoreeとIshmael Bush一家に捕えられているInezは、人間の墮落性と世界の墮落性とが不可分であることを知っているのである。こうしてCooperは、Inezの救済には人間と世界の倫理的再生が不可欠であることを暗示しているのである。

悪の化身MahtoreeとIshmael Bush一家に囚われているInezを解放しようとする人物たちの中で重要なのは、Paul Hoverである。彼は、物語の第3章で登場する。第3章は、Ishmael Bush一家が寝静まった真夜中の場面である。Paulが真夜中に登場したのは、Ishmael Bush一家とともに旅をしているEllenと逢引するためなのである。彼は、日中、Ishmael Bush一家のものたちに見つからないように大草原に点在する茂みに隠れ、夜になるとEllenと会うのだ。Cooperは、夜毎Ellenと会うPaulについて“*He had hovered around the moving family during the tedious period of their weary march, concealing himself by day, and seeking interviews with his betrothed, as opportunities offered...*”(190)と述べている。Paulは、人の目に自分の姿をさらけ出す日中の強い光を避け闇を物理的な隠れ蓑として利用している。彼は、闇が象徴的な意味を与えられていることを理解できないのである。実際、彼は、Natty Bumppoに“*evil is nigh*”(36)と忠告されてもその忠告に耳を貸そうとしない。闇の象徴性を理解できないPaulは、Mahtoreeの象徴性も理解できない。Mahtoreeに率いられたSiouxes族が近づいてくると、PaulはNatty Bumppoに“*Siouxes or devils, they shall find us men!...You have a piece, old man, and will pull a trigger in behalf of helpless, Christian girl!*”(37)という。彼は、Ellenを守るため男らしく

戦うと言い張る。Natty Bumppo が草むらに身を隠せと忠告すると、Paul は、“Let us rather take to our feet, and trust to manhood!”(39)と答えている。彼は、Siouxes 族を自分と同様に闇を物理的な隠れ蓑として行動しているインディアンとみなしている。Paul は、Mahtoree を Siouxes 族の族長と見るけれども悪の化身として理解できないのである。<sup>(8)</sup>

自分を包む闇の性質を理解できない Paul は、Inez が Ishmael Bush 一家に捕えられていることの象徴的な意味をも理解できない。Inez の黒髪は、彼女の人種的・民族的な特徴を表わしているだけでなく象徴的な意味をも与えられていた。Inez の黒髪は、生まれながらに悪に蝕まれていることを示している。Inez の黒髪の背後には悪の化身 Mahtoree が潜み彼女の人間性をじわじわと荒廃させているのである。しかし Paul は、闇の象徴性を理解できなかった。彼は、Inez の黒髪を見てもそこに人種的・民族的な特徴を読み取るだけで悪の化身 Mahtoree の黒い姿を認識できないのである。Inez の黒髪に象徴的な意味を読み取れない Paul は、Ishmael Bush 一家に与えられている象徴性をも理解できないのである。倫理的に腐敗している Ishmael Bush 一家は、墮落した人間の世界を象徴的に表わしていた。Paul は、Ellen と逢引するため象徴的な意味を与えられた Ishmael Bush 一家と付かず離れず旅をしている。このことは、Paul にしても人間の世界の墮落性を免れ得ないことを示しているのである。ところが Paul は、人殺しをした卑劣な Ishmael Bush 一家の友達と見られることを毛嫌にする。実際、Natty Bumppo が Ishmael Bush 一家を知っている Paul に “Is your friend...a man of spirit, enough...”(58)と尋ねると、Paul は “Dont call the squatter a friend of mine!”(58)と強い調子で抗議している。Paul は、Ishmael Bush 一家に比べ自分が倫理的に高潔であると思っている。彼は、Ishmael Bush 一家にまわり付いている自分が Ishmael Bush 一家とさして変わらない倫理的に腐敗した人間であることを自覚できないのである。この自覚を欠く Paul は、Inez が Ishmael Bush 一家に捕えられていることの象徴的な意味をも理解できない。彼は、人間の墮落性と世界の墮落性とが不可分であることを理解できないのである。闇の象徴性を理解できない Paul は、Inez を悪から解放し墮落した世界を倫理的に再生させることもできないのである。

Obed Battius も悪の化身 Mahtoree と Ishmael Bush 一家に囚われている Inez を解放しようとする。Obed は、第6章で登場する。第6章は、“a gray light”(67)と述べられているように夜明け前の薄暗い場面である。博物学者の Obed は、夜明け前の暗闇の中で活動している理由を地球の自転と自分の仕事の性質と関連させて説明する。彼は、Ellen に次のようにいう。

I am abroad at night, my good girl, because the earth in its diurnal revolutions, leaves the light of the sun, but half the time on any given meridian, and because what I have to do, cannot be performed in twelve or fifteen consecutive hours. (68)

Obed は、地球の自転のせいで夜になったからといって博物学者としての仕事をやめる訳にはいかないと説明する。彼は、光と闇の交代を極めて科学的・合理的に説明している。彼は、闇が倫理的な腐敗を隠し悪の跳梁する象徴的な意味を与えられていることを理解できないのである。闇の本質を理解できない Obed は、Mahtoree に与えられている象徴性

をも理解できない。Obed は、Mahtoree の率いる Siouxes 族に捕えられ殺されるかもしれないというときに Natty Bumppo に遺言を頼む。彼は、Natty Bumppo に“You will say that after a well spent and glorious life, I died a martyr to science, and a victim to mental darkness.”(305)という。博物学者の Obed は、志半ばで無知蒙昧なやからの犠牲になったと伝えてくれと頼む。彼は、インディアンを白人の学問の発展がもたらす文明の恩恵に浴していない野蛮な連中とみなしている。Obed は、Mahtoree を悪の化身と理解できないのである。<sup>(9)</sup>

闇や Mahtoree の象徴性を理解できない Obed は、Inez と Ishmael Bush 一家の係わりに象徴的な意味を読み取れないのである。Obed は、闇を科学的・合理的に説明するけれどもその背後に込められている象徴的な意味を認識できなかった。表面的な意味だけを受け止める Obed は、Inez の黒髪を人種的・民族的な特徴を示していると受け止める。彼は、Inez の黒髪の後ろに人間性を破壊しようと企んで潜んでいる悪の化身 Mahtoree の邪悪な姿を洞察できないのである。Inez の黒髪の象徴性を理解できない Obed は、Ishmael Bush 一家の象徴性をも理解できない。Ishmael Bush 一家が腐敗堕落している人間の世界を象徴的に示していることはすでに述べた。Obed は、Ishmael Bush 一家と契約を結び旅をしているのである。実際、彼は、Paul に“I have journeyed far, having entered into a compactum or agreement with a certain man named Ishmael—”(101)と言っている。Ishmael Bush 一家との契約は、Obed も腐敗堕落している人間の世界の一員であることを示している。しかし Obed は、Ishmael が Inez を誘拐シテントに隠していることを知ると契約破棄を通告する。彼は、“It is void! I have been deceived in the very premises; and I, hereby, pronounce a certain compactum, entered into and concluded between Ishmael Bush, squatter, and Obed Battius M. D. to be incontinently null and of non-effect.”(148)という。彼は、こう宣言することで不誠実な Ishmael に荷担せず自分が倫理的に正しい側にいると安心する。契約破棄を通告することで人間の世界の堕落性を免れることができないのだが、Obed は免責されたと錯覚する。彼は、Ishmael Bush 一家と同じように倫理的に腐敗しているのだがそのことを自覚できないのである。闇の象徴性を理解できない Obed は、Inez を悪から解放することもましてや堕落した世界を倫理的に再生させることもできないのである。

Duncan Uncas Middleton も悪の化身 Mahtoree と Ishmael Bush 一家に囚われている彼の妻 Inez を解放しようと努力する。彼は、Inez と同様に“a mass of exuberant, curling, jet-black hair”(108)をしている。彼の黒髪は、Inez の場合と同じく象徴的な意味を与えられている。生まれながらに黒髪をした Middleton は、自分が悪に触まれた存在であることを自覚しているのである。この自覚を持つ彼は、妻 Inez の黒髪に与えられている象徴性を理解できるのである。彼は、Inez の黒髪に人種的・民族的な特徴だけでなく悪に触まれた人間存在の本質を読み取るのである。悪に触まれていることを自覚している Middleton は、悪に触まれている Inez の哀しみを理解し共感することができるのである。実際、彼は、Ishmael Bush 一家の砦に行ったとき Ellen に次のように提案する。

You are a witness, yourself, that I have foreborn to utter a single call, while I am certain it could reach those ears, it would gladden so much. Permit me then to ascend the rock, singly; I promise a perfect indemnity to your kisman against any injury his effects may sustain. (152)

Middleton は、自分一人だけ Ishmael Bush 一家の岩の中に入らせ Inez と話をさせてくれと提案する。黒髪象徴性を理解できる彼は、Ishmael Bush 一家の象徴性を理解できるのである。彼は、Ishmael Bush 一家を腐敗堕落している人間の世界と理解している。しかも悪に蝕まれていることを自覚している Middleton は、自分も Ishmael Bush 一家に具現された堕落した人間の世界と深く係わりを持っていることも自覚している。Ishmael Bush 一家の岩の中に入らせてくれと提案する彼は、堕落した世界の中で悪に蝕まれた Inez の哀しみを共感し彼女を慰め、労り、励まし、互いに支え合いながら生きて行こうとする姿勢を示しているのである。彼のこの姿勢は、明らかに Paul Hover や Obed Battius と対照されている。Paul も Obed も自分たちが悪に蝕まれていることを自覚しないばかりか堕落している人間の世界から超然として倫理的腐敗を免れていると錯誤していた。彼等と対照的に Middleton は、人間と世界の堕落性が不可分の関係であることを認識し自分も堕落している人間の世界の一住人であることを自覚している。この自覚を持つ Middleton は、悪から Inez を解放することも堕落した世界の倫理的再生も悪に蝕まれている人間には不可能であることを認識しているのである。<sup>(10)</sup>

Natty Bumppo も悪の化身 Mahtoree と Ishmael Bush 一家に囚われている Inez を解放しようと努力する。彼は、Middleton に “He was a man, endowed with the choicest and perhaps rarest gift of nature, that of distinguishing, good from evil” (114) と言われている。Natty Bumppo は、倫理的な善・悪を識別できるのである。優れた倫理的洞察力を持つ彼は、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁する闇の中で Paul に “evil is nigh” (36) と忠告していた。Natty Bumppo は、自分を包む闇の性質を見抜いているだけでなく闇の中にいる自分も悪に蝕まれた存在であることを自覚している。優れた倫理的洞察力を持ち悪に蝕まれていることを自覚している Natty Bumppo は、Inez の黒髪を見て象徴的な意味を読み取ることができるのである。彼は、Inez が悪に蝕まれていることを見抜くのである。Natty Bumppo は、Inez の黒髪象徴性だけでなく Ishmael Bush 一家に与えられている象徴性をも理解できるのである。彼は、Ishmael Bush 一家の岩の所に行ったとき Ishmael の娘 Hetty に鉄砲を撃たれる。そのとき、彼は “it is a solemn sight to witness how much human nature is inclined to evil, in one so young!” (155) とつぶやく。彼は、年端もいかないうちから人間は悪に走りがちだといっているのである。彼は、人間の生まれながらの堕落性を認識しているのである。優れた倫理的洞察力を持つ Natty Bumppo は、人間と世界の堕落性が連動していることを理解しているのである。そればかりか彼は、Inez を悪から解放し世界を倫理的に再生させる能力は人間に与えられていないことを知り抜いているのである。Natty Bumppo は、人間を超越した存在によって初めて人間と世界を悪から解放することができると信じているのである。<sup>(11)</sup>

Paul Hoverをはじめ Natty Bumppo に至るまで登場人物たちは、悪の化身 Mahtoree と Ishmael Bush 一家に囚われている Inez を解放しようと努力している。しかし彼等のだれ一人として Inez を悪から解放し墮落した世界を倫理的に再生させることができないのである。悪に蝕まれている人間には、腐敗墮落した人間と世界を再生させる能力を与えられていないのである。こうして、Cooper は、人間と世界を再生させるために人間を超えた存在としてのメシヤの出現が必要であることを暗示している。

Hard-Heart は、物語のほぼ真ん中の第18章で登場する。彼は、Pawnee 族の若きインディアンとして描かれているだけではない。彼は、象徴的な意味をも与えられている。Hard-Heart は、復活のメシヤにして最後の審判のときの審判者として描かれている。<sup>(12)</sup> メシヤ Hard-Heart は、第18章で Inez を初めて見るのである。Cooper は、Hard-Heart が Inez を見たときの様子を “While speaking to the trapper he suffered his wandering glances, to stray towards the intellectual and nearly infantile beauty of Inez, as one might be supposed to gaze upon the loveliness of an ethereal being.” (189) と描写している。Hard-Heart は、まるで天使を見るように Inez を見つめている。彼は、Inez の汚れない無垢な性質を見抜いているのである。一目見ただけで Inez の性質を見抜く鋭い洞察力を持つ Hard-Heart は、Inez の黒髪に与えられている象徴性をも理解する。彼は、Inez の黒髪の背後に悪の化身 Mahtoree が潜み Inez の人間性を蝕んでいることを察知するのである。Hard-Heart は、悪に蝕まれている Inez の魂の苦悩を理解し彼女を悪より救い出そうとする。実際、Hard-Heart にとって Inez は、自分の全存在をかけても惜しくない存在なのである。Cooper は、Inez を二回目に見たときの Hard-Heart について次のように描いている。

Nothing so fair, so ideal, so every way worthy to reward the courage and self devotion of a warrior had ever before been encountered on the Prairies, and the young brave appeared to be deeply and intuitively sensible to the influence of so rare a model of the loveliness of the sex. (258)

Hard-Heart は、Inez を命を捨てても惜しくないほどの美しい存在と見ている。彼は、Inez の表面的な美しさに魅了されているのではない。彼は、悪に蝕まれていることを自覚しながらもカトリックの信者として熱心に悪より救い出されることを願っている Inez の汚れない魂の美しさに引き付けられているのである。こうして Hard-Heart は、全身全霊を傾けて悪の化身 Mahtoree と Ishmael Bush 一家に囚われている Inez を解放しようとするのである。

Inez の悪からの解放は、第23章の火事の場面を通して示されている。悪の化身 Mahtoree は、Natty Bumppo たちが寝ている間に荒野に火を放ち彼等を焼殺そうとする。Natty Bumppo は、火の周辺に Mahtoree に操られた Siouxes 族がいて火を潜り抜けてきたものを殺そうと待ち構えているという。実際、彼は、“There are Siouxes, too, hemming the fire with their arrows and knives on every side of us, or I am no judge of their murderous deviltries.” (245) といっている。悪の化身 Mahtoree は、Natty Bumppo たちを破滅させようとしている。この絶望的な状況の中で Hard-Heart は、野牛の皮の下に隠れ死を免れる

のである。彼は、野牛の皮の下に隠れて悪と死を克服しているのである。彼の復活は、人間とその世界に君臨し続けてきた悪の支配に終止符を打つことを意味している。物語の第30章に描かれた Mahtoree と Hard-Heart の戦いは、Siouxes 族と Pawnee 族の部族同士の戦いではない。それは、象徴的な意味が与えられている。Mahtoree と Hard-Heart の戦いは、悪の化身と復活のメシヤの広大無辺な宇宙の支配をかけた戦いを象徴的に示している。復活のメシヤ Hard-Heart は、第30章で悪の化身 Mahtoree を完膚なきまでに叩き潰している。メシヤ Hard-Heart の悪に対する完全な勝利は、Inez の黒髪に背後に潜んでいる悪を打ち砕き取り除くことなのである。メシヤ Hard-Heart は、悪の呪縛から Inez を解放しているのである。そればかりか彼は、悪に支配されてきた世界をも倫理的に再生させるのである。悪の化身 Mahtoree と Ishmael Bush 一家に囚われていた Inez は、メシヤ Hard-Heart の復活を通して悪より解放されているのである。Inez は、救いを得ているのである。

Inez の救いは、Hard-Heart の審判と深く係わりを持っている。物語の第31章は、裁判の場面である。この場面で重要な役割を果たしているのは、“arbitrary judge”(342)の役をする Ishmael Bush ではなくメシヤ Hard-Heart である。Cooper は、裁判の場面に立ち合っている Hard-Heart について次のように述べている。

Hard-Heart, alone, of all his band, was present to witness the novel and far from unimposing spectacle. He stood leaning gravely on his lance, while the smoking steed, that grazed nigh, showed that he had ridden far and hard to be a spectator, on the occasion. (342)

Hard-Heart は、裁判を目撃するために遠くから急いでやってきたのである。彼は、Ishmael Bush に象徴的に示されていた腐敗堕落した人間の世界に囚われているすべての人々の宗教的・倫理的行いを裁こうとしているのである。Hard-Heart は、人間の宗教的・倫理的行いを裁く審判者なのである。第31章の裁判の場面は、メシヤ Hard-Heart が臨んで行われる最後の審判を象徴的に描いているのである。Inez は、Hard-Heart の前にたつのである。彼女は、自分が悪に蝕まれていることを自覚していた。さらに彼女は、堕落した人間の世界に住む一人として世界の堕落性を免れ得ないことも自覚していた。悪に蝕まれていることを自覚している Inez は、おぞましいことであるけれども悪を黙認したり妥協せざるを得ない人間の哀しい宿命を自覚している。しかし、哀しい宿命を自覚しているからといって彼女は、自己の倫理的判断を回避し開き直っている訳ではない。熱心なカトリックの信者である Inez は、Father Ignatius の教えを思い起こしそれに従おうと努力していた。彼女は、堕落した人間の世界にありながらも人間の力で回避できる悪は何かを識別し回避しようとする努力を怠らないのである。Inez は、自分に厳しい倫理観を課し誠心誠意それを守ろうとしている。Inez は、堕落した世界の中にありながらもメシヤ Hard-Heart に対する信仰を堅持している。メシヤ Hard-Heart は、恵として与えられている信仰に従い誠実に生きようとする Inez を命を捨てても惜しくない美しい存在とみたのである。メシヤ Hard-Heart の Inez に対する裁きは、Inez に救いをもたらすことなのである。

Inez の救いは、Hard-Heart と Tachechana との関係を通してさらに強調されている。

Tachechana は、Mahtoree の妻なのである。彼女は、“She was his third wife it is true, but she was confessedly the most favored of them all.”(287)と述べられているように Mahtoree の最愛の妻なのである。しかし Mahtoree は、Inez を見ると彼女を気に入る Tachechana を捨てるのである。彼は、Inez の前に Tachechana を連れていき “the sweet countenance that was beaming on her own”(293)と描かれた Inez の美しさを見せその後で Tachechana の首から下がっている “a small mirror”(293)に Tachechana の “her own dark image”(293)を写し彼女の醜悪な姿を思い知らせる。こうして、Mahtoree は最愛の妻 Tachechana の人間性を破壊してしまうのである。Tachechana は、悪の化身 Mahtoree に魂を荒廃させられているのである。魂に深い痛手を負った Tachechana を妻として迎えるのが、Hard-Heart である。彼は、Tachechana を悪から解放し魂の負った傷を癒し人間性を回復させている。物語の最終章の第34章で Middleton が再び Pawnee 族の集落を訪れたとき Tachechana と子供が遊んでいるのを目にしている。Cooper は、その様子を次のように描いている。

His own dog was playing at a distance, with the child of Tachechana and Mahtoree. The mother herself, stood at hand holding in her arms a second offspring that might boast of a parentage no less honorable than that which belonged to a son of Hard-Heart. (380)

Tachechana と Mahtoree の子供は、Middleton が第33章で Natty Bumppo と別れるときに彼に貸した小犬と戯れている。Tachechana は、その様子を Hard-Heart との間に生まれた子供をだいて見ているのである。Tachechana は、二人の子供を分け隔てなく慈しみを込めて見ている。この第34章の場面は、第31章に描かれた最後の審判の場面が続く場面である。そのことを考えると第34章の場面は、極めて象徴的な意味を帯びてくる。それは、最後の審判後に訪れる世界を象徴的に示しているといえよう。Tachechana は、悪から解放され魂の負った傷を癒され人間性を回復している。そのうえ、小犬と戯れている子供は、Natty Bumppo と Hector の関係や Middleton と小犬との関係に象徴的に示された人間と自然の穏やかで暖かい関係を保っていることを示している。<sup>(13)</sup>最後の審判後に訪れる世界は、神と人間そして自然の関係が回復され平和が支配している世界であることを示している。それは、メシヤ Hard-Heart の深い懐に抱かれて神の安らぎの中にすべてが憩う世界なのである。Inez は、熱心なカトリックの信者として描かれていた。彼女は、墮落した世界の中で苦悩に耐えながらも誠実にいきようとしていた。Inez は、Tachechana と同じように悪から解放され魂の負った傷を癒され人間性を回復している。このような彼女は、終末のときに Tachechana と同じように神の安らぎの中に憩う世界に招かれる約束が与えられているのである。Inez は、信仰ゆえに救いを得ているのである。

#### 注

- (1) Henry Nash Smith Introduction to *The Prairie* by James Fenimore Cooper (San Francisco: Rinehard Press, 1950) viii, Donald A. Ringe *James Fenimore Cooper* (New Haven: College and

- University Press, 1962) 45, 彼等と同様の見方は、John P. McWilliams, Jr. *Political Justice in A Republic: James Fenimore Cooper's America* (Berkeley: University of California Press, 1972) 259 や Robert Emmet Long *James Fenimore Cooper* (New York: A Frederick Ungar Book, 1990) 65 にも示されている。
- (2) William H. Goetzmann "James Fenimore Cooper: *The Prairie*" in *Landmarks of American Writing* ed. by Henning Cohen (Voice of America Forum Series, 1979) 82
  - (3) William Wasserstrom "Cooper, Freud and the Origin of Culture" in *Leatherstocking and the Critics* ed. by Warren S. Walker (Chicago: Scott, Foresman and Company, 1965) 109, Joel Porte *The Romance in America: Studies in Cooper, Poe, Hawthorne, Melville, and James* (Middletown: Wesleyan University Press, 1969) 47, Warren Motley *The American Abraham: James Fenimore Cooper and the Frontier Patriarch* (Cambridge: Cambridge University Press, 1987) 117
  - (4) James Fenimore Cooper *The Prairie; A Tale* (Albany: State University of New York Press, 1985)  
本論文中的の作品からの引用は、全てこの版による。なお、( ) ないの数字は、そのページを示す。
  - (5) Donald A. Ringe *The Pictorial Mode: Space and Time in the Art of Bryant, Irving and Cooper* (Lexington: The University of Kentucky, 1971) 109
  - (6) E. G. Withycombe *The Oxford Dictionary of English Christian Names* (Oxford: The Clarendon Press, 1977) 6 and 161
  - (7) 拙論「偽審判者としての Ishmael Bush」大阪女学院短期大学紀要第30号 (2000) 105-116
  - (8) 拙論「偽女性解放者としての Paul Hover」大阪女学院短期大学紀要第30号 (2000) 117-128
  - (9) 拙論「偽キリストとしての Obed Battius」大阪女学院短期大学紀要第31号 (2001) 109-124
  - (10) 拙論「Duncan Uncas Middleton の救い」大阪女学院短期大学紀要第31号 (2001) 125-140
  - (11) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号 (1999) 69-83
  - (12) 拙論「荒野における聖餐式」大阪女学院短期大学紀要第28号 (1998) 115-127
  - (13) 拙論「Natty Bumppo と Hector: 人間と自然の新しい関係」大阪女学院短期大学紀要第29号 (1999) 69-83